

法学部におけるキャリア教養科目（数的系）

井川 信子

一 法職講座（一般教養）

二〇〇一年の法学部開設と同時に、課外講座として法職講座（主任・大場敏彦）が開始され、私は一般教養のなかの数的系分野を担当することになった。講座は実際、同年度の後期から、毎週木曜日の五時限に442教室で、表1に示す計画内容に基づき、実施した。初年度ということもあり、高校までの学習内容の復習が中心であったため、特に教科書は用意せず、こちらで用意したプリントを中心に演習形式で実施した。出席学生は約三十名、講座に積極的に取り組もうという姿勢の学生が多かった。

毎回配布するプリントに図1の様式のアンケートを添付して、実施した。アンケートの内容は大きく3つに分類される。すなわち、理解度（図2）¹⁾、難易度（図3）²⁾、必要度（図4）³⁾について主観的な意見を求めた。理解度の平均は2・5、総じてややわからないと感じている、難易度の平均は3・6、総じてやや易し

(表1 講座計画・スケジュール)

日付	回	内容 (テーマ)
9/27	1	ガイダンス (式の計算)
10/4	2	集合・場合の数
10/11	3	順列・組合せ
10/18	4	確率
10/25	5	確率 (2) もうけや損の平均：期待値
11/8	6	統計を読む方法：平均値, 標準偏差 (分散)
11/15	7	方程式
11/22	8	方程式の解法
11/29	9	関数とグラフ (1)
12/6	10	関数とグラフ (2)
12/13	11	図形
12/20	12	数列
2002/1/10	13	まとめ

(図1 アンケート様式)

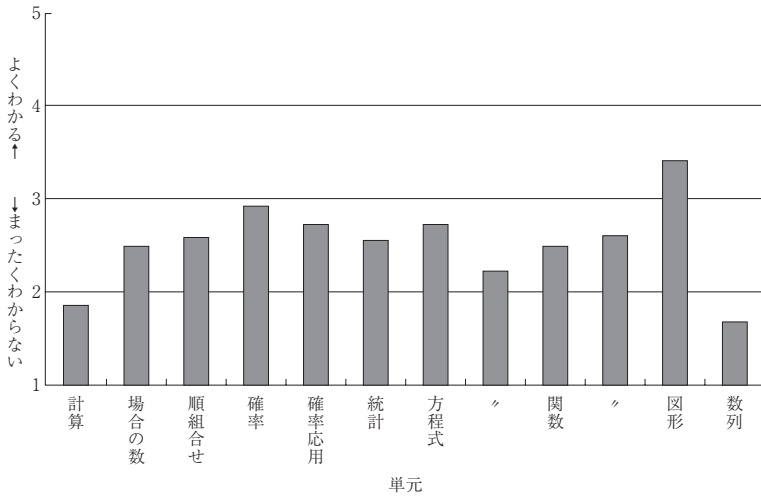
(アンケート) 該当する番号に○をつけてください。

第 回	テーマ：	氏 名	学生番号
	本日の内容の理解度	1 よくわかった 2 ある程度はわかった 3 ふつう 4 あまりよくわからない 5 まったくわからない	
	本日の内容の難易度	1 とてもやさしい 2 やややさしい 3 ふつう 4 ややむずかしい 5 とてもむずかしい	
	内容の (あなたにとっての) 必要度	1 必要 2 不要 3 わからない	

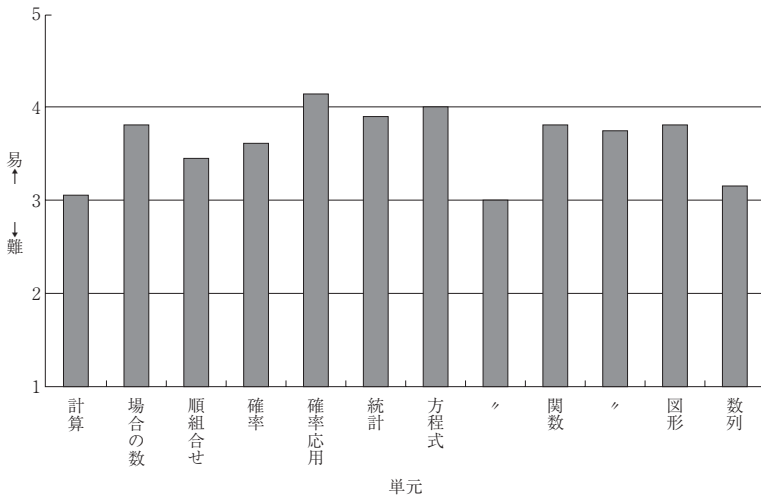
(感想)

法学部におけるキャリア教養科目（数的系）

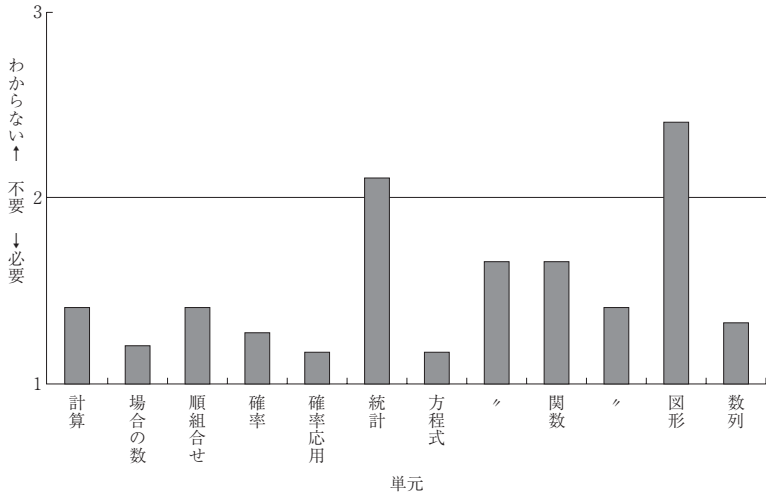
(図2 アンケート結果1 “理解度”について)



(図3 アンケート結果2 “難易度”について)



(図4 アンケート結果3 “必要度”について)



いと感じている、必要度の平均値は1・5、〃不要〃か〃わからない〃という傾向が強いという結果だった。全体として、〃自分の理解度は高くないもの〃の問題はさほど難しくないと感じている〃傾向にあった。つまり、学生は、今は得点できないが、勉強すれば得点できる〃という前向きな意識をもっているということ、講座は充実したものだったと思う。

一方、〃必要度〃については「統計と図形」の分野について、〃不要〃もしくは〃わからない〃という解答が比較的多いので、実際に公務員試験等に出題される重要項目である。〃資料を読み、判断する(資料解釈)〃および〃対象の構造を理解する(判断推理)〃問題の必要度をアピールするための実践的取り組みを、今後してゆく必要があると考えた。

また、二〇〇二年度、二〇〇三年度と進めるうちに、一年生から三年生までが満遍なく講座を受講するようになった。当初は、一年生を中心に講座を計画したが、三年生はより実践的な対策を望むようになった。そこで、表2のように、基礎的な教養クラスと実践問題対策を実施する実践クラスを編成し、各クラスを隔週で開講する方針に変更した。二〇〇二年度から四年間、この講座にほとんど全部出席していた学生

（表 2 教養と実践の実施計画）

対象学年	目 標	内 容
1, 2 年次	教養：基礎的な学力，知識を身につける 各内容について，到達度チェックを実施し，自己分析を行う	・数と式，方程式 ・関数とグラフ ・図形 ・集合と論理 ・場合の数，確率 ・数列 ・数的処理と知能問題
3, 4 年次	実践：受験対策，受験問題演習 演習→小テスト→復習 というフィードバック学習とともに，模擬試験を実施して実践的自己分析を行う	・数学問題受験対策 ・判断推理問題受験対策 ・数的処理問題受験対策 ・資料解釈問題受験対策

の中には、一年生から実践コースにも参加したのもいた。

二 法職キャリア科目（総合）

課外講座のなかで五年間継続した数的系講座は、二〇〇六年度の法学部カリキュラム改訂の際に、新たに、「法職総合Ⅰ、Ⅱ」という正課科目に配置された。その経緯等は、後掲の参考文献 1 に述べているので参照されたい。この科目では、五年間の経験と、今後の法学部におけるキャリア科目の中の数的系の目指す目標を設定し、シラバスを作成した。実際、地方上級試験や国家Ⅱ種試験に必要な数的系の習熟を目標とした。二〇〇八年度入学生からさらに法とキャリア科目の充実に伴い、科目名が変更となり、「法とキャリア（総合Ⅰ）Ⅰ、Ⅱ」となった（表 3、4 は現在のシラバス）。

特に、二〇〇七年度の新松戸校舎の受講生数は百人近くおり、もはや演習方式での授業が難しくなった。そこで、法学検定試験問題演習でも活用している、「Ring Test」に授業の理解度を補う目的で、「数的推理」および「判断推理」の問題を準備した。解説は、二〇〇八年度の学生ボランティアの手作りで、すべて

(表3 法とキャリア(総合1) I シラバス)

講義のねらい
<p>本講義は、法職コース(法律関係の資格取得をめざす人)、公共法務コース(国家公務員や地方公務員・警察官・消防官になりたい人)や総合ビジネスコースを選択する諸君が、資格試験や採用試験の合格を目的として、それらの試験において、実際に出題される試験問題などを中心に実践力を養う目的で開講します。</p> <p>本年度は、数的推理の分野について扱います。</p>
講義内容
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに(講義を始めるにあたって) 2. 講義の進め方と講義の対象・課題 3. 速度問題とダイヤグラム(1) 4. 速度問題とダイヤグラム(2) 5. 濃度と比のイメージ 6. 少し気になる方程式 7. 整数問題と文字式 8. 確率問題の必殺の考え方(1) 9. 確率問題の必殺の考え方(2) 10. 平面図形の実践定理 11. 立体の体積を求める考え方 12. 立体の体積比を求める考え方 13. 考える対象のおきかえ(1) 14. 考える対象のおきかえ(2) 15. まとめ(重要事項の確認、試験の注意など)
テキスト・参考書
<p>[テキスト]</p> <p>・鈴木清士/公務員試験 数的推理 光速の解法テクニック 改訂版/実務教育出版/定価 1,068円</p>
成績の評価方法、履修上の注意(前提・同時履修希望科目)など
<p>平常点として、出席点、毎回実施する小テストの得点およびレポートなどを総合して成績を評価します。</p> <p>法とキャリア(総合1)Ⅱも履修することを望みます。</p>

（表4 法とキャリア（総合1）Ⅱシラバス）

講義のねらい
<p>本講義は、法職コース（法律関係の資格取得をめざす人）、公共法務コース（国家公務員や地方公務員・警察官・消防官になりたい人）や総合ビジネスコースを選択する諸君が、資格試験や採用試験の合格を目的として、それらの試験において、実際に出題される試験問題などを中心に実践力を養う目的で開講します。</p> <p>本年度は、判断推理の分野について扱います。</p>
講義内容
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに（講義を始めるにあたって） 2. 講義の進め方と講義の対象・課題 3. 論理学的問題 4. 規則性を発見する問題 5. 発言からの推理問題 6. 対応関係に関する問題 7. 数量条件からの推理問題 8. 操作手順に関する問題 9. 順序・位置関係の推理問題 10. 平面図形の構成に関する問題 11. 位相と経路に関する問題 12. 軌跡の問題 13. 正多面体の展開図の問題 14. 積木と投影図の問題 15. まとめ（重要事項の確認、試験の注意など）
テキスト・参考書
<p>[テキスト]</p> <p>・鈴木清士／公務員試験 判断推理 必殺の解法パターン 改訂第2版／実務教育出版／定価 1,200円</p>
<p>成績の評価方法、履修上の注意（前提・同時履修希望科目）など</p> <p>平常点として、出席点、毎回実施する小テストの得点およびレポートなどを総合して成績を評価します。</p> <p>すでに法とキャリア（総合1）Ⅰを履修していることを望みます。</p>

作成した。このRing Testは、現在でも補習用に活用している。Ring Testなどの学習支援システムの活用の詳細は後掲参考文献2、その操作法は、参考文献3にまとめたので参照されたい。図5には、Ring Test上の問題と解説の一例を示した。

三 これからの目標

課外講座から始まり、正課授業となった十年間を通して、学生の学びの到達度がひとつの段階として定着したように思う。それは、公務員への就職実績にも表れている。この講座を自らのキャリア（弁理士）へのステップに利用した学生もいたように、有意義に活用した卒業生も少なくないことは、喜ばしいかぎりである。しかし、一方、当初の講座の到達目標は、学生の地方上級職や国家Ⅱ種等の各種試験の合格であることを考えると、就職戦線超氷河期の今としてはやむをえない面もあるというものの、やはり、まだ当初の目標に十分到達しているとはいえないというべきであろう。目標達成を実現すべく学生の習熟度向上を目指した授業運営をいっそう工夫したいと考える。

【参考文献】

1. 井川信子「合成音声音読と確認テストによる強化学習支援システムの事例研究」『流経法学』第七巻第二号（二〇〇七年）、九九―一八ページ。
2. 井川信子「教養としての数学教育におけるICT活用の試みと課題」『大学教育と情報 (UJCE Journal)』第一六巻第一号（二〇〇七年）、一四―一四ページ。
3. 流通経済大学法学部キャリア教育研究会編『RKU法学部キャリアガイド』（二〇一〇年）、五八―六一ページ。

(図5 Ring Test上に作成した、数的推理・判断推理の問題の画面例)

